

介護老人保健施設オアシス21 通所リハビリテーション

症 例 概 要 利用者：男性 80代 要支援

病名：第12胸椎・第5腰椎圧迫骨折、骨粗鬆症、脳梗塞

経過：H30年12月頃から腰痛、下肢痺れあり、圧迫骨折の診断で医療機関でのリハビリを経て歩行器歩行で退院となるが、自宅は歩行器を使用できない環境であったため、リハビリ継続目的でH31年3月にオアシス入所し、杖歩行可能となったため、令和元年6月に自宅退所し、その後デイケアを週2回ご利用されている。

概要：自宅退所後、配食サービス、通所サービスを利用し、スーパーへの買い物や、町内会での麻雀サークルを楽しまれながら生活を送られていたが、コロナ禍となり、外出機会が急激に減少。ご自宅での転倒を繰り返すようになっており、「人に会う機会が減った。外出するのが怖い。」とネガティブな発言をされる機会が多くなっていった。

内 容

配食サービスと通所サービスを利用し、町内会の麻雀会を楽しみに一人暮らしをされていたが、コロナ禍となり楽しみだった麻雀会が中止となり、外出機会が急激に減少した。

コロナ禍が長引くことで「人に会う機会が減った、外出しなくなった。」というネガティブな発言が増え、ご自宅での転倒も増えてきていた。

精神機能、身体機能の低下を予防するべく取り組みを開始。まず、通所のご利用者全員がそれぞれ使用するチラシごみ箱の作成を行った。ご本人がチラシごみ箱を作る様子を見て「教えてほしい。」というご利用者もでき、他ご利用者にチラシごみ箱の作り方を教えるつながりができた。

また、大好きだった麻雀でサークルを作り、同じ趣味を持つ仲間と毎週麻雀サークルを楽しめるようになった。

さらに、通所で初めて取り組んだリハビリフードパントリーへの参加を依頼。受付業務を引き受けて下さり、「大丈夫かな。」と言いながらも、笑顔でお客様の対応をされる姿もあり、「楽しかった。」という感想を頂いた。

このような活動を通し、リハビリ場面で意欲的に屋外歩行に取り組みられ、外出への意欲的な発言が聞かれるようになり、転倒の報告も少なくなってきました。

通所リハビリテーションで生きがい作り、仲間作りを行い、フレイル予防につながった貴重な事例を報告致します。